



## フローティング L3Outs の構成

---

- [フローティング L3Outs の構成 \(1 ページ\)](#)
- [フローティング L3Out を構成するためのワークフロー \(2 ページ\)](#)

## フローティング L3Outs の構成

このセクションでは、フローティング L3Out 機能を活用するために必要な特定の構成ステップについて説明します。以下のさまざまなセクションでは、ソフトウェアとハードウェアの要件、VMM または物理ドメインの外部デバイス部分を使用したフローティング L3Out の展開、外部接続接続先への準最適なトラフィックパスを回避するために必要な特定の構成、およびこのタイプの通信のパスに対して複数の等コストを活用する方法について説明します。

### ソフトウェア要件

- VMMドメインを使用したフローティング L3Out には、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) リリース 4.2(1) 以降が必要です。
- 物理ドメインを使用したフローティング L3Out には、Cisco APIC リリース 5.0(1) 以降が必要です。
- 準最適パスを回避するには、次の Cisco APIC リリースが必要です。
  - 外部プレフィックスのネクストホップが直接接続された IP の場合：
    - BGP を使用したネクストホップ伝達には、Cisco APIC リリース 5.0(1) 以降が必要です。
    - OSPF およびスタティックルートを使用したネクストホップ伝達には、Cisco APIC リリース 5.2(1) 以降が必要です。
  - 外部プレフィックスのネクストホップが直接接続された IP ではなく、ループバックアドレス (マルチプロトコル再帰ルート解像度) の場合は、Cisco APIC リリース 5.2(1) 以降が必要です。

### ハードウェア要件

正しいリーフスイッチがあることを確認してください。フローティング L3Out は、次のトップオブブラックスイッチをサポートしていません。

- Cisco Nexus 9332PQ
- Cisco Nexus 9372PX
- Cisco Nexus 9372TX
- Cisco Nexus 9396PX
- Cisco Nexus 9396TX
- Cisco Nexus 93120TX
- Cisco Nexus 93128TX
- Cisco Nexus 9372PX-E
- Cisco Nexus 9372TX-E

フローティング L3Out では、アンカー ノードと非アンカー ノードとして第 2 世代リーフ スイッチを使用する必要があります。上記の第 1 世代スイッチは、アンカー ノードまたは非アンカー ノードとして構成できません。ただし、フローティング L3Out がプロビジョニングされていない場合、第 1 世代スイッチを非境界リーフ スイッチまたは計算リーフ スイッチとして使用できます。

## フローティング L3Out を構成するためのワークフロー

このセクションでは、VMware vSwitch 分散スイッチ (VDS) または物理ドメインを使用するときに、フローティングレイヤ 3 外部ネットワーク接続 (L3Out) を構成するために実行する必要があるタスクの概要について説明します。

- 注意事項と考慮事項を読んで理解してください。  
[フローティング L3Out の考察事項と制限事項](#)の項を参照してください。
- ソフトウェアおよびハードウェアの要件など、すべての前提条件を満たします。  
[フローティング L3Outs の構成 \(1 ページ\)](#)の項を参照してください。
- ドメインを構成します。  
[GUI を使用したドメインの構成](#)の項を参照してください。
- フローティング L3Out を構成します。  
手順「[フローティング L3Out の作成](#)」を参照してください。
- L3Out 構成が正しいことを確認します。  
[L3Out 構成の検証](#)の項を参照してください。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。